

第2回 防災支援人材育成プログラム策定会議 議事録

日時：令和7年12月20日（土）10:00～12:00

場所：防災科学技術研究所 第1ユニット棟1階 第3会議室

出席：（策定会議委員 五十音順）天野一男、井手よしひろ、笠島昇治、草間清那、桑野あゆみ、笹島俊秋、柴田美智子、田中香織、野上大介、堀内隆博、森剛勇、吉田淳（計12名）
（事務局）李泰榮、今泉賢吾、王尾和寿、若泉政人

欠席：長屋和宏、松崎貴志、山本美和

オンライン参加：なし

【議題】

1. 自己紹介（前回欠席2名）
2. 第1回会議の振り返り
3. 防災支援人材育成プログラム（仮）の内容検討
4. 事務連絡

【配布資料】

1. 第1回防災支援人材育成プログラム策定会議振り返り（プログラム概要、地域防災ファシリテーション「形」、カリキュラム、名簿）
2. 第1回防災支援人材育成プログラム策定会議議事録
3. セッション2：観察と信頼構築・説明資料
4. セッション2：観察と信頼構築・ワークシート案

議題3 防災支援人材育成プログラム（仮）の内容検討は、事務局の李が配布資料を投影し説明を行った。冒頭、第1回会議後に確定したこと、改めて確認することとして以下を説明した。

【プログラムの概要】

- プログラム名「地域防災ファシリテーター育成プログラム」
- プログラム作成の目的：自主防災組織や自治会から防災活動をやりたいけれども、どこから手をつけてよいかわからないという相談を防災士会が受けた際、自主防災組織等に派遣する支援者（地域防災ファシリテーター）を育成すること
- プログラムを公表するにあたり、セッション名を例えば「リスク同定」の場合には「災害リスクを把握する」といったシンプルなわかりやすい表現にする
- プログラムの時間は、座学×2（各15分）、演習×1（40分）、事前及び事後評価（各5分）、演習への切り替え（10分）＝合計90分
- プログラムの説明が15～20分で終わられるように、説明資料は10ページ程度にする

配布資料をもとに、李が行った説明内容は以下の通りである

- ① 地域防災ファシリテーション「形」

- ② セッション2概要（ねらい、構成、学習目標、学習内容）
- ③ セッション2・パート2-1「観察」
- 観察1：観察とは何か
 - 観察2：なぜ観察が必要なのか
 - 観察3：観察の主な内容と手法
 - 観察4-1：文献や地図、インターネットによる地域情報の収集
 - 観察4-2：自治体が公開する資料・計画
 - 観察4-3：重ねるハザードマップ
 - 観察4-4：e-Stat 地図で見る統計（jSTAT MAP）
 - 観察5-1：ヒアリング・アンケートおよび現地踏査による方法
 - 観察5-2：ヒアリング・アンケートおよび現地踏査の具体的方法
 - 観察6：〈事例〉地域の現状や住民ニーズを理解し共有するための観察
 - 観察7：観察のまとめ

説明をふまえた委員の意見、質問等および検討事項等は以下の通りである。

資料ページ	委員意見	検討事項等
観察3	<ul style="list-style-type: none"> ●（井手委員）用語が分からない。表現が硬い。参与観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ●「端から見て観察（中に入らない）」の意味。平易な表現にする（プログラムは中学生でも理解できるレベルを目標とする）
観察4-1	<ul style="list-style-type: none"> ●（天野委員）いきなりハザードマップは抵抗がある。地理院地図の「自然災害伝承碑」など災害履歴・伝承から入ると分かりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域防災計画の災害想定と被害想定を重点的に確認し、その関連で「過去の災害履歴を見る」など「観察」として導入しやすいページを追加する ●ハザードマップを見て、社会構成を確認し、地域を把握する流れに整理する
観察4-2	<ul style="list-style-type: none"> ●（井手委員）地域防災計画は分量が多く入手困難でもあり、すべて読み込むのは現実的ではない。最低限の「ここだけ見ればよい」というポイントを示してほしい。ハザードマップも国のポータル版（重ねるハザードマップ等）と市町村版で違いがある ●（井手委員）「必須ポイント」や「押さえどころ」の解説を入れると資料がより生きる 	<ul style="list-style-type: none"> ●全部読み込む必要はない。必須ポイントを明確化する。資料集（情報の種類ごとに網羅）と、研修資料（必須情報中心）を分ける方向でまとめる ●資料集に細かい情報も入れ、研修資料は必須情報を中心に構成する

資料ページ	委員意見	検討事項等
観察 5-1	<ul style="list-style-type: none"> ●（堀内委員）新しい地域での「まち歩き」は不審者扱いのリスクがある。現地調査までに、自治会・自主防災組織等の協力体制に入るプロセス（紹介・パイプづくり）が必要 ●（堀内委員）マンションでも現地調査をすると「誰だ」と拒絶されやすい。腕章・ビブス・身分証等で身元が分かる工夫が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●プログラムは、地域の自主防災組織等から防災士会への依頼があった後に実施することを想定しており、依頼時点で、両者につながりがあることが前提となっている。現地調査は依頼元やヒアリング対象者と一緒に歩く流れを考える。説明資料の現地を歩く部分は、内容も削り「可能なら行うプラスアルファ」との位置づけにする ●地域を歩く際、身元提示（ビブス等）をして、地域の人と一緒に歩くという記述にする

つづいてパーツ 2-2 「信頼構築」について、李が行った説明内容は以下の通りである

④ セッション 2 ・パーツ 2-2 「信頼構築」

- 信頼構築 1：地域防災に関わるステークホルダーとの信頼関係の構築
- 信頼構築 2：信頼の 2つの要素 能力と意図
- 信頼構築 3：能力への信頼および意図への信頼を得るために
- 信頼構築 4：信頼構築の主な内容と手法
- 信頼構築 5：地域への入り方のポイント
- 信頼構築 6：場づくりと合意形成のポイント
- 信頼構築 7：ステークホルダーやキーパーソンとの関係構築のポイント
- 信頼構築 8-1：〈事例〉 ソーシャル・キャピタルと信頼構築
- 信頼構築 8-2：〈事例〉 岐阜県羽島市正木町須賀区の自主防災組織
- 信頼構築 9：信頼構築のまとめ

説明をふまえた委員の意見、質問等および検討事項等は以下の通りである。

資料ページ	委員意見	検討事項等
信頼構築 1	<ul style="list-style-type: none"> ●（堀内委員）自治体や地域によって防災への関心に温度差がある。危険が見えにくい地域で、自治体の話を聞きつつ信頼関係を作り、気づきを促す枠組み（パターン）が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●プログラムは、「同伴型（対象：課題が明確な地域）」と「探索型（対象：何をすべきか不明な地域）」に分けて作る。探索型は観察・データ等で危険性や課題を提示し、プロセスデザインで課題を発見し、対策の議論へとつなげる。次のセッションで説明する
信頼構築 1	<ul style="list-style-type: none"> ●（桑野委員）横文字が多く初心者には難しい。用語集がほしい ●（桑野委員）地域の住民から質問されたときの「返し方」の記録（FAQ、経験知集）があると助かる 	<ul style="list-style-type: none"> ●FAQ（よくある質問）を作る。委員の皆さんの経験談を収集してまとめたいので、意見交換シート（掲示板）に書き込んでいただきたい

資料ページ	委員意見	検討事項等
信頼構築 5～7	●（田中委員）学習内容に「考え方と必要性」とあるが、「必要性」が資料で十分に示されていない。住民が意見交換する場を設ける必要性・信頼構築技術の意義を 1 枚スライド等で補うとよい	●「概念」ページと「必要性」ページを分け、必要性を具体的に示す。信頼構築 5～7 の方法論（自己紹介・対話・場作り・合意形成等）ごとに必要性を整理する構成にする
信頼構築 6	●（堀内委員）多様な参加者の発言を引き出して、ホワイトボードへの板書等でまとめることで理解・納得感を作るのがファシリテーターのキモ。そうした「ファシリテーターの能力アップ」の要素があっても良い	●「場づくり」は、信頼構築パートでは信頼構築 6 の上半分だが、セッション 3 以降のプロセスデザイン（リスク同定・課題設定・対策検討）で、もっと広げた場づくりを扱う
信頼構築 8-1	●（井手委員）ロバート・パットナムの定義で社会組織の特徴として挙げられている「規範」は「社会規範」だと思う	●確認する
信頼構築 8-2	●（草間委員）「対策や訓練の助言と実施」にある「コミュニティビレッジの準備・運営」は、岐阜県の個別事例ではないか	●おっしゃる通り。削除する

つづいてパーツ 2-3 「演習」について、李が行った説明内容は以下の通りである

⑤ セッション 2・パーツ 2-3 「演習」

- 演習 1：何を学ぶのか
- 演習 2：災害リスクの情報収集（重ねるハザードマップ）
- 演習 3：人口および世帯構成の情報収集（e-Stat）
- 演習 4：地域の特徴を把握しわかりやすい説明を考える
- ワークシート 地域の観察と信頼構築【記入例（東京都板橋区近辺）】

説明をふまえた委員の意見、質問等および検討事項等は以下の通りである。

資料ページ	委員意見	検討事項等
演習 2～4	●（井手委員）パソコンがない人や苦手な人が多い。ワークシートをどの形式で配るのか（PDF かワードか等）も検討が必要	●基本はパワーポイント。プログラム実施の環境条件として、学校のパソコン室（ネット環境やパソコンがあること等）を仕様として明示する ●研修では必ずグループで議論して資料を作成し、その後発表する。発表することで、ほかの人のソフトの使い方などを通して得られる気づきも期待できると考える

資料ページ	委員意見	検討事項等
演習 2～4	<ul style="list-style-type: none"> ● (天野委員) 多様な意見を整理する方法は付箋が一般的。ファシリテーターは能力差が大きい。付箋で貼りだしても、ファシリテーターがわからないところはスルーしてしまったりすることもある。方法の検討が必要だと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「観察」と「信頼構築」は、パソコンを使って、ワークシートを用意し、枠に沿って画像などを貼る形で行う ● 紙と付箋を使った意見の整理は、プロセスデザインのセッション3で、ファシリテーターが地域に入って「リスク同定」や「課題発見」で行う
演習 2～4	<ul style="list-style-type: none"> ● (笠島委員) グループワークは最初にリーダー(長)・記録・発表など役割を決めるとスムーズに行く ● (笠島委員) 議論を活発にするためにアイスブレイクが有効(例:3.11時にどこで何をしていたか) 	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークショップ手法として次のセッション3(リスク同定、課題発見、対策検討)で扱う
演習 4	<ul style="list-style-type: none"> ● (田中委員) 防災士に求められるのは「経験知」。それを伝える「わかりやすい説明」は必要。わかりやすく説明を導く資料集や、地形・地域パターン別の事例集があると信頼構築にも役立つ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 60歳以上の方が見て説明できるものが必要なため、参考資料集でわかりやすく説明できるよう誘導する ● 地域特性から見える課題の資料は作成したものがある。参考資料集を整備し、参照しながら説明文を書けるように誘導する。事例も収集し提示する
演習 4	<ul style="list-style-type: none"> ● (井手委員) リスク情報と人口構成情報があるなら、掛け合わせた「クロス分析」例(高齢者多い×浸水深い等)を示すと“情報の見方”が分かる。昼間人口なども重要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害特徴・社会特徴・地域特徴を統合して説明につなげる構造にする。どの情報をどこに持ってくると「課題の説明」になるかについて、項目を矢印や色分けで関連づけて視覚的にもわかりやすくする。地域特徴から見た災害課題についての資料も用意する
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● (吉田委員) ファシリテーター育成の対象は大人だけでなく、中高生など学生も含めてよいのか。防災士中心か 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生防災士の例もあるが、活動の制約があるのではないかと考える。学生は鋭い質問をする。大人と組み合わせ、セットで参加するのもよい。自治体と協議を進める制度設計において、「子どもと一緒に」実施することを提案する

以上